

四 半 期 報 告 書

(第215期第2四半期)

自 平成26年7月1日
至 平成26年9月30日

東京瓦斯株式会社

E04514

注意

- 1 本書は金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく四半期報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、平成26年11月14日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものである。
- 2 併せて本書の末尾に、独立監査人の四半期レビュー報告書を綴じ込んである。

目 次

	頁
第215期 第2四半期 四半期報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	
第1 【企業の概況】	
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	
1 【株式等の状況】	
(1) 【株式の総数等】	8
(2) 【新株予約権等の状況】	8
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	8
(4) 【ライツプランの内容】	8
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	8
(6) 【大株主の状況】	9
(7) 【議決権の状況】	10
2 【役員の状況】	10
第4 【経理の状況】	11
1 【四半期連結財務諸表】	
(1) 【四半期連結貸借対照表】	12
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	14
(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】	16
2 【その他】	23
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	24

独立監査人の四半期レビュー報告書

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月14日
【四半期会計期間】	第215期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	東京瓦斯株式会社
【英訳名】	TOKYO GAS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 広瀬 道明
【本店の所在の場所】	東京都港区海岸一丁目5番20号
【電話番号】	03-5400-7736（直通）
【事務連絡者氏名】	経理部連結決算グループマネージャー 富田 成己
【最寄りの連絡場所】	東京都港区海岸一丁目5番20号
【電話番号】	03-5400-7736（直通）
【事務連絡者氏名】	経理部連結決算グループマネージャー 富田 成己
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第214期 第2四半期 連結累計期間	第215期 第2四半期 連結累計期間	第214期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (百万円)	933,506	1,031,048	2,112,117
経常利益 (百万円)	64,971	72,607	159,613
四半期(当期)純利益 (百万円)	42,783	57,030	108,451
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	69,250	44,716	147,138
純資産額 (百万円)	963,050	1,018,602	1,029,492
総資産額 (百万円)	2,018,389	2,102,399	2,176,816
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	16.97	23.22	43.10
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	46.9	47.6	46.5
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	61,555	20,779	240,993
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△129,466	△80,306	△235,636
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	14,629	△11,454	△9,195
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	95,866	78,538	150,918

回次	第214期 第2四半期 連結会計期間	第215期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	6.66	5.03

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2 売上高には、消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という）は含まれていない。
以降においても、売上高の金額には消費税等は含まれていない。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社（当社、子会社67社、関連会社71社、計139社）が営む事業の内容について、重要な変更はない。

また、主要な関係会社に異動はない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はない。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項なし。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社及び連結子会社（以下、本書面では「当社グループ」という）が判断したものである。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、一部に弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復基調が続いている。ただし、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の長期化や海外景気の下振れなどが、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。

このような経済情勢の下で、都市ガスの販売については、夏場の気温が前年同月と比較して低く推移した影響による空調需要の減少等により業務用需要が減少したものの、お客さま件数の増加等により家庭用需要が増加したこと、及び発電向け需要の増加等により工業用需要が増加したこと等から、ガス販売量は前年同期比7.8%増の7,192百万m³となった。ガス販売量の増加及び円安影響等に伴う原料費調整による売上単価増等があったため、都市ガス売上高は前年同期に比べ73,268百万円増加し、737,899百万円となった。この都市ガス売上高の増加に加え、その他エネルギー売上高（電力等）の増加等を受け、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期に比べ97,542百万円増加し、1,031,048百万円となった（前年同期比10.4%増）。

一方、経営効率化の一層の推進を図り、費用の抑制に最大限の努力を重ねてきたものの、ガス販売量の増加及び円安影響等によりガス原材料費が増加したこと、並びにその他エネルギーに関わる費用が増加したこと等により、営業費用は前年同期に比べ91,467百万円増加し、956,464百万円となった（前年同期比10.6%増）。

この結果、営業利益は前年同期に比べ6,076百万円増加し、74,584百万円となった（前年同期比8.9%増）。

また、経常利益も7,636百万円増加し、72,607百万円（前年同期比11.8%増）となった。これに加え、特別利益として、固定資産売却益5,462百万円、投資有価証券売却益4,868百万円、特別損失として、投資有価証券評価損517百万円を計上し、法人税等を計上した結果、四半期純利益は14,247百万円増加し、57,030百万円となった（前年同期比33.3%増）。

セグメント別の業績は、次のとおりである。

① 都市ガス

家庭用需要については、前年同期に比べ2.7%増加し、1,284百万m³となった。

また、業務用需要は3.8%減少し1,324百万m³、工業用需要は16.1%増加し3,626百万m³、他ガス事業者向け供給は3.9%増加し958百万m³となり、ガス販売量合計では7.8%増加し7,192百万m³となった。

ガス販売量の増加及び円安影響等に伴う原料費調整による売上単価増等があったため、売上高は737,899百万円となり、前年同期に比べ73,268百万円増加した（前年同期比11.0%増）。

一方、ガス販売量の増加及び円安影響等で原材料費が増加したこと等により、営業費用は72,397百万円増加した（前年同期比12.1%増）。この結果、セグメント利益は66,777百万円と前年同期に比べ871百万円増加した（前年同期比1.3%増）。

② 器具及びガス工事

売上高は86,624百万円と前年同期に比べ6,692百万円減少した（前年同期比7.2%減）。営業費用は6,025百万円減少した（前年同期比6.7%減）。この結果、セグメント利益は2,313百万円と前年同期に比べ667百万円減少した（前年同期比22.4%減）。

③ その他エネルギー

売上高は193,715百万円と前年同期に比べ27,833百万円増加した（前年同期比16.8%増）。営業費用は24,865百万円増加した（前年同期比16.3%増）。この結果、セグメント利益は16,323百万円と前年同期に比べ2,968百万円増加した（前年同期比22.2%増）。

④ 不動産

売上高は13,080百万円と前年同期に比べ1,478百万円減少した（前年同期比10.2%減）。営業費用は1,469百万円減少した（前年同期比12.8%減）。この結果、セグメント利益は3,109百万円と前年同期に比べ9百万円減少した（前年同期比0.3%減）。

⑤ その他

売上高は96,160百万円と前年同期に比べ12,474百万円増加した（前年同期比14.9%増）。営業費用は10,451百万円増加した（前年同期比13.1%増）。この結果、セグメント利益は6,077百万円と前年同期に比べ2,023百万円増加した（前年同期比49.9%増）。

なお、参考のため、セグメント別の売上高及び構成比を示す。

セグメント	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
都市ガス	664,631	65.1	737,899	65.4
器具及びガス工事	93,316	9.1	86,624	7.7
その他エネルギー	165,882	16.2	193,715	17.2
不動産	14,558	1.4	13,080	1.2
その他	83,686	8.2	96,160	8.5
合計	1,022,074	100.0	1,127,480	100.0
調整額	△88,568	—	△96,432	—
連結	933,506	—	1,031,048	—

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間においては、税金等調整前四半期純利益の計上に対し、減価償却費の計上及びコマース・ペーパーの純増額等があったものの、有形固定資産の取得及び仕入債務の減少等があり、現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ72,379百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には78,538百万円となった（前連結会計年度末比48.0%減）。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、当第2四半期連結累計期間において20,779百万円となった。

これは、税金等調整前四半期純利益の計上（82,420百万円）に対し、仕入債務の減少（63,887百万円）及びたな卸資産の増加（47,996百万円）等により資金が減少したものの、減価償却費が計上（66,566百万円）されたこと等によるものである。

また、これは、前第2四半期連結累計期間に比べ40,776百万円の収入の減少となる（前年同期比66.2%減）。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、当第2四半期連結累計期間において80,306百万円となった。

これは、投資有価証券の売却及び償還による収入（8,082百万円）等があったものの、ガス製造設備をはじめとする有形固定資産の取得による支出（87,587百万円）等により資金が減少したことによるものである。

また、これは、前第2四半期連結累計期間に比べ49,160百万円の支出の減少となる（前年同期比38.0%減）。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は、当第2四半期連結累計期間において11,454百万円となった。

これは、コマース・ペーパーの純増額（48,000百万円）があったものの、自己株式の取得による支出（40,055百万円）及び長期借入金の返済による支出（24,007百万円）等により資金が減少したこと等によるものである。

また、これは、前第2四半期連結累計期間に比べ26,083百万円の支出の増加（収入の減少）となる（前年同期は資金増加）。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

株式会社の支配に関する基本方針について

当社は、「エネルギーと未来のために 東京ガスグループがめざすこと。～チャレンジ2020ビジョン～」（以下、「チャレンジ2020ビジョン」という。）の策定を踏まえ、平成24年1月31日開催の取締役会において、以下のとおり「当社グループの経営理念および経営の支配に関する基本方針」の改定を決議した。

当社グループは、首都圏を中心に1000万件超のお客さまへ安全かつ安定的に都市ガスを供給するとともに、ガス、熱、電力等各種エネルギーやそれらの付加価値のベストミックスをお客さまへ提供し、「快適な暮らしづくり」と「環境に優しい都市づくり」に貢献するなど、極めて公益性の高い事業を展開しており、お客さま、株主の皆さまをはじめ、社会から常に信頼を得て発展し続けることを経営理念としている。

当社は、この経営理念および中長期の経営戦略に基づき、長期に安定した経営を行うとともに、お客さま、株主の皆さま、その他のステークホルダーの皆さまに対し安定的かつバランスの取れた利益の配分を行うことにより、着実な企業価値の向上を実現していくことを経営の基本方針としている。株主さまへの還元については、別に定める「剰余金の配当等の決定に関する方針」に基づいて実施していく。

当社は上場会社であり、当社株式の大量取得を目的とする買付けや買収提案が行われることも考えられるが、その場合に応じるか否かは、最終的には当社の株主さま全体のご意思に基づき決定されるべきものと考えている。しかしながら、株式の大量買付行為の中には、その目的・方法等からみて企業価値ひいては株主共同の利益を著しく毀損するおそれがあるものがあり、当社はこうした大量買付行為を不適切であると判断する。判断にあたっては、買付者の事業内容や将来の事業計画、並びに過去の投資行動等から、当該買付行為又は買収提案による当社企業価値・株主共同の利益への影響を慎重に検討していく。

当社としては、不適切な大量買付行為に対する最大の防衛策は「企業価値の向上」であると考えている。現在のところ、当社は具体的な買収の脅威にさらされておらず、いわゆる「買収防衛策」を予め導入することはないが、市場動向等を常に注視し、当社株式を大量に取得しようとする者が出現した場合には、直ちに当社として最も適切と考えられる措置を講じていく。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発費総額は3,815百万円である。主な研究開発活動は主力事業である都市ガス事業を中心に行われており、3,277百万円である。当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の状況の変更の内容は、次のとおりである。

① 環境技術と天然ガス利用の高度化

当社は、パナソニック㈱と共同で、停電時に家庭用燃料電池「エネファーム」が運転停止中でも、自立起動して発電し、停電時使用可能コンセントを通じて家庭内に電力を供給できる新たな「停電時発電機能」を備えたオプション品を開発した。本製品により、使用電力が700W以下の場合には、停電時に最長約4日間に渡って電力を使用することが可能となる。また、本製品の自立起動用電源ユニットに内蔵された蓄電池からの供給分も合わせて、停電時に最大1200Wの電力を約2時間使用することが可能となる。

都市ガス以外の事業については、当該事業を営む連結子会社を中心となって、商品化開発等を行っている。器具及びガス工事事業に係る研究開発費は526百万円、その他エネルギー事業に係る研究開発費は1百万円、その他の事業に係る研究開発費は10百万円である。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因

事業推進上の外部リスク要因

① 気温変動リスク

当社グループの年度売上高の過半が都市ガスの販売によるもので、その販売量は気温の影響を受ける。家庭用においては、主なガスの利用目的は給湯・暖房であるため、暖冬の場合にはガスの販売量が減少し減収・減益要因となる。業務用においては、主な利用目的が空調であるため、夏場においては気温が低い場合、冬場においては気温が高い場合に、それぞれガス販売量が減少し減収・減益要因となる。

当第2四半期連結累計期間の平均気温（※）は21.9℃だったが、当連結会計年度の平均気温は通期で16.9℃を想定している。

（※）平均気温は、お客さまそれぞれの、ご使用期間（前月の検針日から当月の検針日まで）における気温を平均したものの。

② 原料購入価格変動リスク

当社が供給する都市ガスの主要原料であるLNGは海外から輸入しており、ドル建ての売買契約になっているため、円／ドル為替の変動リスクを受ける。また、ドル建てのLNG価格は原油価格に連動して決定されるため、国際原油価格市場の変動リスクも受ける。

ただし、原料購入価格が変動しても変動分について最大5ヶ月遅れ（注1）でガス料金に反映する「原料費調整制度（注2）」が適用されるため、年度を区切ると回収超過や回収不足が発生するが、中長期的には収支への影響は軽微である。

為替及び原油価格の変動が第3四半期連結会計期間以後の当連結会計年度の売上総利益に与える影響額は、以下のとおりである。

為替：1円／ドルの円安により、約1,600百万円減

原油価格：1ドル／バレルの価格上昇により、約2,100百万円減

当連結会計年度見通しにおける年平均為替相場と原油価格は、前連結会計年度がそれぞれ100.17円／ドル、110.00ドル／バレルであったのに対し、それぞれ106.51円／ドル、104.75ドル／バレルを想定している。

（注）1 ガス料金への反映は、契約により5ヶ月遅れではない場合もある。

2 調整の上限がある。

③ 金利変動リスク

当社の有利子負債は、長期・短期ともに概ね固定金利であるため、借入れ期間中の金利変動リスクは軽微である。しかし、借換え時等においては金利変動のリスクを受ける可能性がある。

④ 株価変動リスク

当社の保有する株式は、業務上必要な企業との関係を維持するためのものが大部分である。そのうちマーケットリスクにさらされる可能性があるのは、上場株式の株価である。これら株式の扱いについては、管理規則を設けている。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

① 資産、負債及び純資産

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末から74,417百万円（3.4%）減少し、2,102,399百万円となった。これは、原材料及び貯蔵品残高の増加、並びに設備投資に伴う建設仮勘定残高の増加等があったものの、有価証券（譲渡性預金）残高の減少、並びに季節要因による受取手形及び売掛金残高の減少があったこと等によるものである。

負債は、前連結会計年度末から63,528百万円（5.5%）減少し、1,083,796百万円となった。これは、長期借入金の新規借入れ等があったものの、支払手形及び買掛金残高の減少があったこと等によるものである。

純資産は、前連結会計年度末から10,890百万円（1.1%）減少し、1,018,602百万円となった。これは、四半期純利益の計上（57,030百万円）等により増加したものの、自己株式の市場買付（39,999百万円）、為替換算調整勘定残高の減少（12,831百万円）、及び剰余金の配当（12,556百万円）があったこと等によるものである。

総資産の減少率に比べ、自己資本（株主資本及びその他の包括利益累計額の合計）の減少率が小さかった結果、自己資本比率は47.6%と1.1ポイント上昇した。

② 連結キャッシュ・フロー

	営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)
当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	20,779	△80,306	△11,454
前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	61,555	△129,466	14,629

(7) 財務方針について

当社は、チャレンジ2020ビジョンの策定を踏まえ、平成24年1月31日開催の取締役会において、以下のとおり当社グループの「財務方針」を決議した。

チャレンジ2020ビジョンに基づき、持続的成長に向け積極的な原資投入を行うとともに、投資・資本効率性、財務体質、株主配分にも留意し、長期的な企業価値向上に資するバランスのとれた財務戦略を実現していく。

① 投資・資本効率性

投資に伴うリスクおよび採算性に留意し個別の投資判断を行うとともに、投資効率の維持・向上および株主資本の有効活用に努める。

具体的にはROA（総資産利益率）・ROE（自己資本利益率）を主要経営指標と位置付け、2020年度における目標を、ROAは4%程度、ROEは8%程度と定め上記の実現を図る。

② 財務体質

現在の資金調達力を維持し財務健全性を確保するとともに、資本コストを意識した最適な資本構成の実現に努める。

具体的には、D/Eレシオ（負債資本倍率）を主要経営指標と位置付け、2020年度に至るまで各年度0.8倍程度を目標と定め上記の実現を図る。

③ 株主配分

創出されるキャッシュ・フローを、新たな成長に向けた「LNGバリューチェーンの高度化」に資する投資に振り向けるとともに、株主の皆さまに経営の成果を適切・タイムリーに配分する。

具体的には、配当に加え、消却を前提とした自社株取得を株主還元策の一つとして位置付け、総分配性向（連結当期純利益に対する配当と自社株取得の割合）の目標を、2020年度に至るまで各年度6割程度とする。

また、配当については、安定配当を維持しつつ、中長期の利益水準を総合的に勘案し、成長に合わせて緩やかな増配を実現していく。

$$n\text{年度総分配性向} = ((n\text{年度の年間配当金総額}) + (n + 1\text{年度の自社株取得額})) \div n\text{年度連結当期純利益}$$

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,500,000,000
計	6,500,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月14日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	2,446,778,295	2,446,778,295	東京証券取引所(市場第一部) 名古屋証券取引所(市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	2,446,778,295	2,446,778,295	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日 (注)	△70,773	2,446,778	—	141,844	—	2,065

(注) 平成26年6月27日の取締役会決議に基づき、同年7月15日に実施した自己株式の消却による減少である。

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6 日本生命証券管理部内	156,935	6.41
第一生命保険株式会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式 会社)	東京都千代田区有楽町1-13-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	120,472	4.92
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	90,856	3.71
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信 託口)	東京都港区浜松町2-11-3	83,163	3.40
東京瓦斯グループ従業員持株会	東京都港区海岸1-5-20	44,578	1.82
富国生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式 会社)	東京都千代田区内幸町2-2-2 (東京都中央区晴海1-8-12)	41,103	1.68
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託第一生 命保険口再信託受託者資産管理サービス信託 銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-12	35,490	1.45
THE CHASE MANHATTAN BANK, N. A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島4-16-13)	31,297	1.28
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	1776 HERITAGE DRIVE, NORTH QUINCY, MA 02171, U. S. A. (東京都中央区月島4-16-13)	30,986	1.27
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U. S. A (東京都中央区月島4-16-13)	30,888	1.26
計	—	665,772	27.20

(注) 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループから、平成26年6月16日付の大量保有報告書の写しの送付があり、同年6月9日現在で株式会社三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行株式会社及び三菱UFJ投信株式会社がそれぞれ当社株式を保有している旨の報告を受けた。その後、同年6月30日付の変更報告書の写しの送付があり、同年6月23日現在で前記3名及び三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社が、それぞれ当社株式を保有している旨の報告を受けたが、当社として当第2四半期会計期間末時点における実質所有株式数の確認ができない。

なお、その変更報告書の内容は次のとおりである。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	株式 5,744,128	0.23
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	株式 63,944,000	2.54
三菱UFJ投信株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	株式 7,137,000	0.28
三菱UFJモルガン・スタン レー証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	株式 2,876,450	0.11
合計	—	株式 79,701,578	3.17

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,427,000 (相互保有株式) 普通株式 163,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,428,095,000	2,428,095	—
単元未満株式	普通株式 12,093,295	—	—
発行済株式総数	2,446,778,295	—	—
総株主の議決権	—	2,428,095	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が8,000株(議決権8個)含まれている。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式421株及び相互保有株式630株の合計1,051株が含まれている。

② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 東京瓦斯株式会社	東京都港区海岸1-5-20	6,427,000	—	6,427,000	0.26
(相互保有株式) 坂戸ガス株式会社	埼玉県坂戸市末広町3-5	20,000	—	20,000	0.00
東京ガスファーストエ ナジー株式会社	埼玉県さいたま市西区土屋 584-2	102,000	—	102,000	0.00
東京ガスエコモ株式会 社	神奈川県横浜市港南区丸山 台2-12-1	21,000	—	21,000	0.00
東京ガスライフバル渋 谷株式会社	東京都渋谷区幡ヶ谷2-1 -13	14,000	—	14,000	0.00
東京ガス葛飾エナジー 株式会社	東京都葛飾区青戸4-2- 8	5,000	—	5,000	0.00
東京ガスクリエイティ ブ株式会社	東京都三鷹市新川6-11- 7	1,000	—	1,000	0.00
計	—	6,590,000	—	6,590,000	0.27

2 【役員の状況】

該当事項なし。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）及び「ガス事業会計規則」（昭和29年通商産業省令第15号）に基づいて作成している。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
固定資産		
有形固定資産		
製造設備	181,651	176,654
供給設備	477,589	470,184
業務設備	61,432	59,497
その他の設備	320,112	315,461
休止設備	316	395
建設仮勘定	154,384	184,097
有形固定資産合計	1,195,487	1,206,289
無形固定資産		
のれん	668	561
その他無形固定資産	131,658	131,060
無形固定資産合計	132,327	131,622
投資その他の資産		
投資有価証券	181,196	179,428
長期貸付金	15,219	14,182
退職給付に係る資産	14,693	5,492
繰延税金資産	26,171	26,561
その他投資	27,896	27,879
貸倒引当金	△471	△497
投資その他の資産合計	264,707	253,047
固定資産合計	1,592,521	1,590,959
流動資産		
現金及び預金	72,979	78,599
受取手形及び売掛金	253,715	217,703
リース債権及びリース投資資産	26,358	25,578
有価証券	78,000	10
商品及び製品	3,896	4,790
仕掛品	10,213	20,551
原材料及び貯蔵品	62,726	99,365
繰延税金資産	11,902	12,381
その他流動資産	65,224	52,966
貸倒引当金	△722	△506
流動資産合計	584,294	511,439
資産合計	2,176,816	2,102,399

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
固定負債		
社債	336,495	322,696
長期借入金	309,544	325,719
繰延税金負債	12,987	13,037
退職給付に係る負債	84,965	76,436
ガスホルダー修繕引当金	3,373	3,464
保安対策引当金	1,713	1,383
資産除去債務	7,646	7,537
その他固定負債	17,640	18,236
固定負債合計	774,366	768,511
流動負債		
1年以内に期限到来の固定負債	51,079	41,864
支払手形及び買掛金	113,064	75,375
短期借入金	18,262	16,714
未払法人税等	41,580	35,241
繰延税金負債	2	2
その他流動負債	148,967	146,086
流動負債合計	372,957	315,285
負債合計	1,147,324	1,083,796
純資産の部		
株主資本		
資本金	141,844	141,844
資本剰余金	2,065	2,065
利益剰余金	827,129	829,148
自己株式	△3,643	△3,640
株主資本合計	967,395	969,418
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,860	27,250
繰延ヘッジ損益	△671	△1,000
為替換算調整勘定	17,889	5,058
退職給付に係る調整累計額	1,313	207
その他の包括利益累計額合計	44,391	31,516
少数株主持分	17,705	17,667
純資産合計	1,029,492	1,018,602
負債純資産合計	2,176,816	2,102,399

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
売上高	※1 933,506	※1 1,031,048
売上原価	647,893	742,900
売上総利益	285,612	288,147
供給販売費及び一般管理費		
供給販売費	184,376	180,913
一般管理費	32,727	32,649
供給販売費及び一般管理費合計	※2 217,104	※2 213,563
営業利益	68,508	74,584
営業外収益		
受取利息	690	353
受取配当金	1,683	1,300
持分法による投資利益	2,203	1,581
雑収入	4,059	3,410
営業外収益合計	8,637	6,646
営業外費用		
支払利息	5,994	6,205
雑支出	6,181	2,417
営業外費用合計	12,175	8,623
経常利益	64,971	72,607
特別利益		
固定資産売却益	—	5,462
投資有価証券売却益	—	4,868
特別利益合計	—	10,331
特別損失		
減損損失	2,036	—
投資有価証券評価損	—	517
特別損失合計	2,036	517
税金等調整前四半期純利益	62,934	82,420
法人税等	19,610	24,838
少数株主損益調整前四半期純利益	43,324	57,582
少数株主利益	540	552
四半期純利益	42,783	57,030

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	43,324	57,582
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,101	1,392
繰延ヘッジ損益	579	41
為替換算調整勘定	15,081	△11,462
退職給付に係る調整額	—	△1,120
持分法適用会社に対する持分相当額	4,163	△1,717
その他の包括利益合計	25,926	△12,866
四半期包括利益	69,250	44,716
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	68,668	44,155
少数株主に係る四半期包括利益	581	560

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	62,934	82,420
減価償却費	64,810	66,566
長期前払費用償却額	1,732	1,626
固定資産売却損益 (△は益)	△4	△5,332
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△4,868
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△1,277	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	—	△2,456
前払年金費用の増減額 (△は増加)	△217	—
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	—	△2,256
受取利息及び受取配当金	△2,373	△1,653
支払利息	5,994	6,205
持分法による投資損益 (△は益)	△2,203	△1,581
売上債権の増減額 (△は増加)	24,742	38,731
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△6,207	△47,996
仕入債務の増減額 (△は減少)	△36,775	△63,887
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△2,202	△6,063
前払費用の増減額 (△は増加)	△8,877	△9,504
未収入金の増減額 (△は増加)	3,457	10,555
その他	△5,260	△6,261
小計	98,271	54,244
利息及び配当金の受取額	2,918	2,636
利息の支払額	△5,761	△6,243
法人税等の支払額	△33,872	△29,857
営業活動によるキャッシュ・フロー	61,555	20,779
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の売却及び償還による収入	278	8,082
有形固定資産の取得による支出	△125,490	△87,587
無形固定資産の取得による支出	△8,736	△9,081
長期前払費用の取得による支出	△699	△2,139
固定資産の売却による収入	592	6,671
長期貸付金の回収による収入	5,860	3,807
その他	△1,270	△60
投資活動によるキャッシュ・フロー	△129,466	△80,306
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,652	△1,591
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	—	48,000
長期借入れによる収入	63,157	19,609
長期借入金の返済による支出	△16,983	△24,007
社債の発行による収入	20,000	20,000
社債の償還による支出	—	△20,000
自己株式の取得による支出	△36,053	△40,055
配当金の支払額	△14,127	△12,561
その他	△3,015	△847
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,629	△11,454
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,864	△1,398
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△48,416	△72,379
現金及び現金同等物の期首残高	144,283	150,918
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 95,866	※1 78,538

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間

(自 平成26年4月1日

至 平成26年9月30日)

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に対応する割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率へ変更した。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減している。

この変更による利益剰余金への影響額は軽微であり、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響額についても軽微である。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率等を乗じて計算している。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

(1) 連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対する債務保証

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
MT Falcon Holdings Company, S. A. P. I. de C. V.	11,556百万円	11,763百万円
TOKYO TIMOR SEA RESOURCES INC.	717	508
六本木エネルギーサービス(株)	462	425
川崎天然ガス発電(株)	433	378
ICHTHYS LNG PTY LTD	19,819	26,356
Cordova Gas Resources Ltd.	1,918	2,017
計	34,907	41,449

(2) 社債の債務履行引受契約に係る偶発債務

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
第14回無担保普通社債	29,500百万円	—百万円
第15回無担保普通社債	9,200	9,200
計	38,700	9,200

(四半期連結損益計算書関係)

※1 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

ガス事業が、売上高の大半を占めているため、事業の性質上気温等の影響により、著しい季節的変動がある。

※2 供給販売費及び一般管理費のうち主な費目は次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
退職給付費用	4,623百万円	1,276百万円
ガスホルダー修繕引当金引当額	228	246
保安対策引当金引当額	1,375	—
貸倒引当金引当額	258	208
減価償却費	45,406	45,755

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 9 月 30 日)
現金及び預金	72,927百万円	78,599百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金等	△61	△61
有価証券に含まれる譲渡性 預金	23,000	—
現金及び現金同等物	95,866	78,538

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1 配当金支払額

平成25年6月27日開催の定時株主総会において、次のとおり決議している。

普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	14,144百万円
② 1株当たり配当額	5.50円
③ 基準日	平成25年3月31日
④ 効力発生日	平成25年6月28日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

平成25年10月30日開催の取締役会において、次のとおり決議している。

普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	12,556百万円
② 1株当たり配当額	5.00円
③ 基準日	平成25年9月30日
④ 効力発生日	平成25年11月29日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

3 株主資本の金額の著しい変動

(1) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式の取得のための市場買付を以下のとおり実施した。

なお、平成25年5月24日までの買付をもって、平成25年4月26日開催の取締役会において決議した自己株式の取得について、取得を終了した。

① 買付期間	平成25年4月30日～平成25年5月24日(約定ベース)
② 買付株式数	60,368千株
③ 買付総額	35,999百万円
④ 買付方法	東京証券取引所の自己株式立会外取引(ToSTNeT-3)による買付及び 東京証券取引所における指定金外信託による市場買付

(2) 自己株式の消却

当社は、平成25年6月27日に開催した取締役会において、会社法第178条の規定に基づき自己株式を消却することを決議し、以下のとおり実施した。

① 消却する株式の種類	当社普通株式
② 消却する株式の数	60,368千株
③ 消却実施日	平成25年7月12日

II 当第2四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）

1 配当金支払額

平成26年6月27日開催の定時株主総会において、次のとおり決議している。

普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	12,556百万円
② 1株当たり配当額	5.00円
③ 基準日	平成26年3月31日
④ 効力発生日	平成26年6月30日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

平成26年10月30日開催の取締役会において、次のとおり決議している。

普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	12,201百万円
② 1株当たり配当額	5.00円
③ 基準日	平成26年9月30日
④ 効力発生日	平成26年11月28日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

3 株主資本の金額の著しい変動

(1) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式の取得のための市場買付を以下のとおり実施した。

なお、平成26年6月12日までの買付をもって、平成26年4月28日開催の取締役会において決議した自己株式の取得について、取得を終了した。

① 買付期間	平成26年5月7日～平成26年6月12日（約定ベース）
② 買付株式数	70,773千株
③ 買付総額	39,999百万円
④ 買付方法	東京証券取引所における指定金外信託による市場買付

(2) 自己株式の消却

当社は、平成26年6月27日に開催した取締役会において、会社法第178条の規定に基づき自己株式を消却することを決議し、以下のとおり実施した。

① 消却する株式の種類	当社普通株式
② 消却する株式の数	70,773千株（消却前の発行済株式の総数に対する割合2.81%）
③ 消却実施日	平成26年7月15日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	都市ガス	器具及び ガス工事	その他 エネルギー	不動産	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	636,323	87,160	163,230	5,532	892,247	41,259	933,506	—	933,506
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	28,307	6,155	2,651	9,026	46,141	42,426	88,568	△88,568	—
計	664,631	93,316	165,882	14,558	938,388	83,686	1,022,074	△88,568	933,506
セグメント利益	65,906	2,980	13,355	3,118	85,360	4,054	89,414	△20,905	68,508

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設事業、情報処理サービス事業、船舶事業、クレジット・リース事業、海外事業等を含んでいる。

2 セグメント利益の調整額△20,905百万円には、セグメント間取引消去1,020百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△21,926百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	都市ガス	器具及び ガス工事	その他 エネルギー	不動産	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	708,944	81,017	190,202	5,351	985,516	45,532	1,031,048	—	1,031,048
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	28,955	5,606	3,512	7,728	45,803	50,628	96,432	△96,432	—
計	737,899	86,624	193,715	13,080	1,031,319	96,160	1,127,480	△96,432	1,031,048
セグメント利益	66,777	2,313	16,323	3,109	88,524	6,077	94,601	△20,017	74,584

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設事業、情報処理サービス事業、船舶事業、クレジット・リース事業、海外事業等を含んでいる。

2 セグメント利益の調整額△20,017百万円には、セグメント間取引消去842百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△20,860百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(金融商品関係)

金融商品について、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められるものはないため、記載を省略している。

(有価証券関係)

有価証券について、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められるものはないため、記載を省略している。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引（ヘッジ会計が適用されているものは除く）において、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められるものはないため、記載を省略している。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	16円97銭	23円22銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	42,783	57,030
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	42,783	57,030
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,521,434	2,455,653

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2【その他】

(1) 第215期中間配当に関する取締役会決議について

平成26年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議している。

- ① 中間配当による配当金の総額 12,201百万円
- ② 1株当たりの金額 5.00円
- ③ 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成26年11月28日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月14日

東京瓦斯株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田中 輝彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池谷 修一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三浦 勝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京瓦斯株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東京瓦斯株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2 XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。



古紙/バルブ配合率100%再生紙を使用しています